

THE
JAPAN
INTERIOR
DESIGNERS'
ASSOCIATION

JID

no. 57

1972. Aug. 15th.

昭和47年8月15日発行

目 次

主集 新役員はかたる	
新役員はかたる 理事長・各部長・各委員長	1
組織図	6
選考にあたって	7
かるてっと・だんわしつ	8
賛助会員紹介・編集後記	11

協会の充実と積極的な活動を

——デザイナーとしての自信と責任、ヤングパワーに期待——

経済の高度成長が生み出した、環境の汚染、自然の破壊、人口の過密・過疎などの諸問題は次第に深刻化しつつありますがこのままで行くと、日本はもとより地球全体が人間の住みうる環境にならなくなってしまう危険性があり、これは、住環境の形成を業としてあるわれわれにとって見過すことの出来ない深刻な問題といわねばなりません。

今や、建築・ID・クラフト・インテリアなどのデザイン各分野のデザイナーが、互に連帯感をもって協力して、積極的にその解決に努力しなければならぬ時であると思います。

これらの問題は単にデザイン分野のみで解決し得ることではなく、消費者・産業界とも協力一致して同じ努力をする必要があります。

しかし、消費者のあくことのない所有欲と、産業界の利潤追求一辺倒の姿勢が一大転換をしない以上問題の解決

はあり得ないというところまで来ているのではないかと思います。

デザイナーも、消費者も、産業界も今までの価値感を捨てさり、新しい価値感を受け入れるだけの勇気と決断が望まれます。

人間のための新しい環境を創るためにも新しい価値感を生み出すためにも、われわれはデザイナーの自信と責任をもって、これからの住環境のヴィジョンを広く世に提案する必要があると思います。

その意味で、いま着々とすすめられている昭和48年をデザインイヤーとする試みは大きい意義のある計画であるといえましょう。

昭和47年度の当協会の事業は、このデザインイヤーを一つの目標として、その基礎固めとしての協会内部の充実を図り、積極的な活動の出来る組織作りをしたいと考えます。

又これと併行して建築界とのより緊

理事長 白石勝彦

密な協力態勢、産業界との相互理解など、外への働きかけも大切であると思います。

さらに、当協会の活潑な活動のペースとなる財政面の充実も、正会員・賛助会員の強化などの方法により努力したいと思います。

以上の事業を遂行するためには、会員の皆様の絶大なる御協力に頼るばかりはなく、若輩ながら理事長をお引き受けした以上、出来るだけの努力をおしまないつもりです。これを機会にヤングパワーによる爆発的な盛り上りを期待しております。

デザインの本質を

自分自身に問いかけよう

広報部長 川上信二

これは私の見当違いな見方かも知れませんが、デザインについての考え方がこの数年、表面的な時代の先取り意識に振り廻わされている傾向がある様に思えてなりません。これはデザインのもつラジカルな面の宿命かも知れませんが、デザインの本質が人間性に根ざしたものだと言う側から見れば、おかしなものの様に思えます。

たしかに、私達の環境は日に日にエスカレートする情報社会にあって、その対応すべき空間の創造は、インテリアデザイナーにとって、現在のもっとも大きな使命だと思います。

しかし、このエスカレートする情報社会の体質について、深く考える余裕を見つけることも私達の一つの大きな課題ではないでしょうか。

デザインと言う職種が、産業の目的達成のみに使われていれば、それはすでにデザイン公害の元兇としか言えないでしょう。インテリアデザイナーが人間の環境づくりの正しい推進者であるとするならば人間の叡知に立った環境づくりをしていかなければならないでしょう。

実はこんな解りきった事を、あえてはじめに言わしてもらうのは、現代のデザインの中には、時代の先取りと言う観念にまどわされて、その本質が仲々見えなくなって来ているのではないかと思えるからです。私達は、インテリアデザインの職種の確立、社会的責任と業務の遂行、そして会員相互の信頼の上に意見を交換し、はげまし合い、成長し、ひいては我が国の更には全世界の人間生活によりよい豊かさを創り出すためにこの協会に集っています。この大義名文は、私達にとってはかけがえのない物に思えます。しかし、同

時に大きな落とし穴もある様に思えてなりません。はじめにのべた私の見方は、今のところ私自身にも問いかける大きな課題なのですが、本質を追求するわづらわしさより先に職能組織に寄りかかってしまいそうだからです。

来年は、日本でも I C S I D が開かれ、官民一体でデザインイヤーの行事も種々練られています。これを機会に私達もデザインの本質をとらえなければならぬでしょう。

しかしここでも私なりに感ずることは、単にお祭り事で、デザインの表面的一面性にまどわされることなく、真に人間生活に根ざしたデザイン運動をしなければならない事だと思います。協会のイメージづくりもこの本質が重要であって、ただいたづらに表面的であってはならないと思います。各会員夫々の自覚の上での質の向上が協会のイメージづくりにもつながることになるのではないのでしょうか。

デザインイヤー経過報告

副理事長 渡辺 優

I C S I D の総会及び大会を日本に誘致するのに当って、同時期にデザインに対する国民全体の認識を深める国内での運動の必要が望まれた。

昨年3月にデザイン奨励審議会に J I D A 案が出されたが、当初 I D イヤーとされていたのが、のちにデザインイヤーとしてより幅広いものの展覧が呼びかけられた。

I C S I D の方は、昨年(71年)10月、スペインイビザで正式に日本での開催が決定し、同時にデザインイヤーの方も具体的な計画段階に入った。

今年の3月以降準備が開始され、4月に各方面の関係団体が集まって打合せ会が行なわれた。具体的な内容の検討は、デザイン3団体、産デ振、通産省検査デザイン課のメンバーによる推進委員会によって、J I D A 案をもと

に討議がくり返され、予算案を出すための作業を中心として進行した。

デザインイヤーの事業は、基幹、協賛、広報の三つに分けられる。

基幹事業には世界 I D 会議(I C S I D)、生活デザイン博(D E X P O)、デザインミュージアム設立準備、デザインキャラバン等の案があるが、そのうち、世界 I D 会議は既に、実行委員会が活動中で、10月8、9日に東京経団連ホールで総会、10月11～13日に京都国際会議場で大会が開かれることに決定している。大会には、中央集会(コングレス)の他、物を中心にしてディスプレイをするデザインプラザと呼ばれるもの、京都市内の各所で分科会として開かれる環境を中心とした I C S I D シテイと呼ばれるものが計画されている。

協賛事業は一年間を通じて、各地で行なわれるデザインに関連する催しを

中心として展開される。

また広報事業はデザインイヤーそのものの広報活動としてのマークやポスターの製作を始めとする事業の他、広くデザインの啓蒙に結びつく論文の募集やスライドの製作等が考えられている。

事務局には、ハンブルグから帰国された榎田氏(製科研、協会正会員)が次長として決定している。

デザインイヤーの期間は1973年(昭和48年)4月1日から翌年の3月31日までと予定されている。

デザインイヤーの予算は、通産省の局内の審議段階で、未だ予測できない段階である。

当協会としては、デザインイヤーの委員会をつくり、協会体勢をととのえる時期にきており、今後計画の進展と共に、様々なかたちでの協力がのぞまれることになるだろう。

新 役 員 は か た る

各委員長へは、下記テーマの内1題を選択して答えて下さい。(20行以内)

- ① デザイナーと関連企業の在り方
- ② デザイナーの職能とその将来
- ③ 協会の中で何を実行し、協会はどうあるべきか。
- ④ これからの協会と社会との関連のしかたについて。
- ⑤ あなた御自身の今年度の抱負について。

(掲載順は不同、敬称略)

秋山修治 研究委員会委員長

② 当協会も年と共に会員数も増し、それと同時に会員の巾も非常に広がってきている。社会の多様化と共にデザイナーも又多様化していかなければならないであろう。

この様な環境の中でデザイナーに求められるものは、深い洞察と行動である。どちらかと言うと閉鎖的な当協会を、開放的なものとし、お互いが自由に意見交換の出来る場とし、参加し、行動する事によって、それぞれの会員のメリットのある場として行く必要がある。そして広く他の分野とも連けいし、インテリアデザインとは何か、インテリアデザイナーは何をすべきかを考える場としたい。会員それぞれが思考錯誤するのではなく、それぞれの英知を集め、複雑な社会でデザイナーが、どう対応すべきかを考え、行動する核となるようなものにしたい。

榎田 均 出版委員会委員長

協会の皆様、大変永い間御無沙汰しておりました。私、ジェトロ、ハンブルグの駐在員生活が3年11ヶ月余にわたっておりましたが去る6月2日、家族共々無事帰国致しました。

目下製品科学研究所、製品性能部に勤務し、併せて73年デザインイヤーの事務局(産デ振内に設置)を運営するよう依頼されました。

さて、4年振りに見る東京で感じた事は、活況と異状のあだ花の様なものを印象付けられました。西欧の管理された街造りによる“秩序と調和”の中から舞戻ってみると将に経済成長促進型の歪が如何に人間性を無視してきたかが焼き付けられます。

尾上孝一 会報委員会委員長(関東)

④ これからの協会の浮沈を語るのが、あるいは、社会との関連のしかたにかかっているといっても過言ではあるまい。いわゆる、その存在価値は、今や相対的な関係に立っているというべきであろう。そのためには、

(1) インテリア関連企業との交流を通して、新しい人間のためのインテリアの在り方をさぐる。すなわち、よりよき住生活、住環境は何か。そのための企業の在り方やデザイナーの発想の原点をさぐる意味からも注視すべきであろう。

(2) デザイナー自身の意識の変身。

かつて、社会に君臨したかの如きデザイナーの姿勢は、ゆれ動く社会の中で微妙に変わりつつある。

それは、同時に、協会自身のもつ受け身の姿勢から、より能動的な前向きの働きかけへと前進させなければならぬまい。

中村圭介 委員長会議議長

① デザイナーと企業との結びつきは、戦術的要求での結びつきと戦略的立場での結びつきがあります。

形とか、色とか、センスとかが主体になるのは、大体前者で、なにを如何に作るかが企画されるのは後者です。

この二つはどちらもデザイナーの仕事ですが、最近の後者の役割も、ようやく理解されてきました。

今度決まった報酬規定の改訂では、新たに、企画を主とした業務契約を設けましたが、このような事を背景にしたものです。

とかく、お知恵拝借の好きな国民性ですが、もっともっと、我々の実力を高め、インテリアデザイナーの社会的信用を高めたいと思います。

田中聰行 財務委員長

① デザイナーと関連企業の在り方について考えると、常に問題になるのは相互間の価値基準の違いからおこる軋轢がひきおこす相互不信である。

これは相互間の求めるものと与えるもの、或は相互理解の接点としての共通性が具体的であるかどうかと言う基本的な点を曖昧にして唯“良い物を作ろう”と云う感覚的な共鳴から出発する場合に起りがちなのである。

相互間の観念的な理解はあっても、営利を目的とする企業と、人の側面から思考するデザイナーは“合理性”と“人間性”についての究極の合致をみることが稀であり、現状では絶望的と言えよう。

我々がこの時点で反省すべきは、指導的立場に固執し、その範囲を拡大し、自身の潔癖さから、社会一般の人々のことを忘れることである。

新 役 員 は か た る

本田 安治 会報委員長（関西）

⑤ 以下、当然の事ながら、従来意の如くならなかった面が少くないので敢えて記し度い。

広報の仕事は、協会活動の趨勢と共に在り、協会活動充実下にあつては、忠実な伝達機関として仕事に迫られたとしても意義があり、又協会活動の停滞をみてとった場合は、それを除去するに相応しい方途を見出し、訴える事が仕事となる。いずれにしてもその前提となるものは協会内諸活動との協働であり、その全体を常に見通し得る立場であらう。その意味で昨年は各担当間の合同委員会の開催などを提案し、協働による協会活動の一貫性に努めてきたが、幸いにも関西に於いてその気運が盛上りつつある。

広報担当として、良き協力委員の方々を得た現在、この盛上った気運を足場として増々協会活動の充実とその任をはたし度い。

林 寅正 会報委員長（中部）

④ インテリアデザインを目指す人が増えて来た。家庭の主婦も、子供も極めて自由な発想から壁面を飾り、色を塗り、物を置き変えて一つの雰囲気を作り楽しむようになった。之は之で大変いい事と思う。しかし環境構成は之だけではない筈である。私達の周辺には無数の工業製品が、印刷物が、建築が制御も出来ず気儘に氾濫し、人間環境、自然環境を破壊しつつある。インテリアデザインは道具界、建築界にわたる絶好の立場として此の住環境破壊の歯止となるべきである。こうした時、協会の将来に期待し、進めるべきと思う事の一つは単なる断片のデザインに止まりがちな現社会に、協会各位の巾の広い知識と経験によって総合的なデザイン、及び調整を今、強力に働きかけつつある事、そしてその母体としての協会の存在を広く知らせる事である。

山口 勇次郎 総務部長

③ 今年度の組織図で分るように総務に三委員会があつて、財務・組織・渉外のどれをとってみても協会運営に重要な役割をもつものばかり。

協会はお金がなければ行いたい事業も満足に行うことが出来ないの、賛助会員を増すことで財政を豊かにし同時に賛助会員のメリットを明確に打出して連携して会全体の発展に役立たせなくてはならないというのが財務の責務ということで、台所をあずかるようなものである。

また会員相互の会に対する理解と協力をより強固にするためには、新たに出来た組織委員会の活動にまたなければならぬ。会員一人一人が会員であることの自覚と、会のための協力に力を合すことが出来たら、インテリア業界の発展にも寄与することが出来るであらう。また、デザイナーを強力

に推進している通産やデザイン団体との協力体制のためには渉外に大いに活躍してもらわねばならない。

これら全部が総務に科せられたものであり、各委員長、各委員とそろっていても、会員の協力なくしては一つも達成できないものばかりである。

よろしく御協力下さい。

地方支部と協会の 在り方について

関西支部 富田卓司

居住する各地区の協会員が、各地域で望まれている活動とは何か。私は各地区会員が夫々の地域性と経済性と云う条件を知りつくし「期待される住環境」と云うアイテムを具体化すること、生活空間のパターンをクリエイトすることであると考えたい。

日常の分担業務が、大部分の協会員がそうである様に、何んらかの意味で、家具のマスプロダクション、インテリアエレメントに限られたディテールに関連するものであるとしても、区域の望ましい住環境をかたちづくる創造の場を探し求めているのである。

創造した住まいのかたちを具体化し、発表し、提案する計画を、今関西支部の我々は、協会の事業とダブらして考えてみる。

住空間の計画者、創造者として、夫々の地域に居住する協会構成員のメリットは、自由な創造する事業に参画し、参加することで満たされていると云える。こまやかな情感で支えられて、はじめて地域の共感を求められるであろう生活環境の変化のきざしを提案する事業活動は、地区的なスケールに適している様である。従って各地域でまとめたオリジナリティーを集積して、最終的に協会の総合的な事業とする事も、可能ではないかとも考えられる。

いずれにしても現在の関西支部は、「期待される住環境」をメインに、創造する活動を軸として、すべての事業を展開し、具体化するために支部は存在するもの、と我々は考えている。

6月30日関西支部総会で確認し、11月5日理事会の了承を得た。

地方支部と協会の 在り方について

中部支部 松本政雄

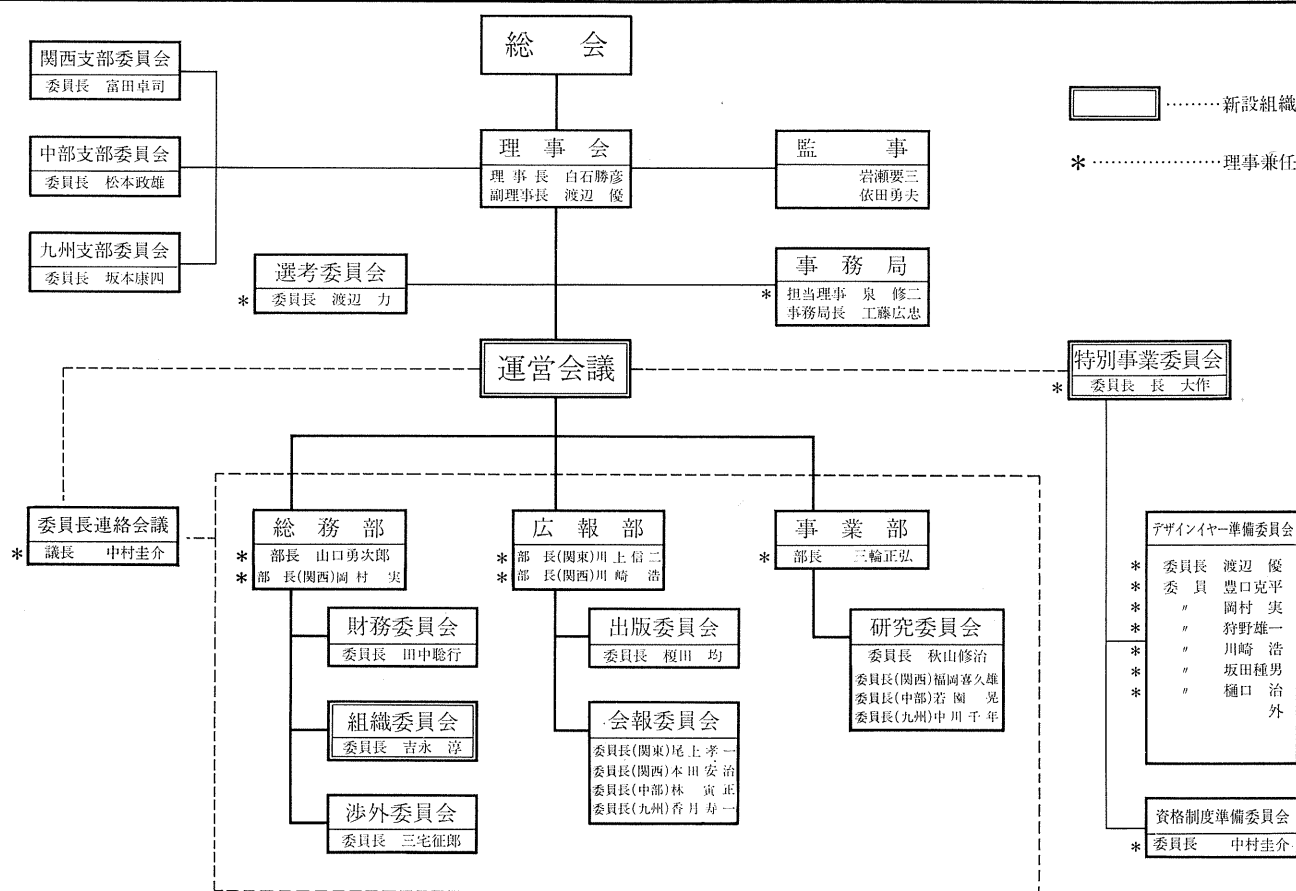
(1) 地方支部の実態を考えると、実際的には協会自体の一つの触角的な存在であり、また協会の基盤的な性格を有するものである。現在法的にいえば地方支部という形体は存在せず、いわば協会の出先の意味なものであるが、然しその実状はそれぞれの地方に於て一応支部という形体を以って協会活動の一端をになう甚だ重要な組織である。

(2) その意味から考えれば、支部に属する総ての会員は、本協会の会員としての権利と義務とを有するものであることは明白な事実である。ただいえることは協会の所在地に遠く現実的には幾多のハンデキャップがあることは止む得ないことである。然し今后はも

っと地方それぞれの会員が何らかの方法によって、また何らかの目的によって集合し得られる方途が必要であろう。その結果常に地方会員の間に清新かつ能動的な空気を醸成し得られるとすれば、協会自体の活動は一層大きな成果が期待されるとともに地方的な沈滞も少くなるものと思われる。

(3) 本年度は協会としても多くの計画が実施されるが、それが協会としての新しい動向として協会自体の発展になりまた社会的福祉になることを希うことは当然なことであるが、またその中で特に地方的な場が十分に生かされ、同時に地方的な活動の飛躍を助成することを要望したい。それには地方としてもまたそれを構成する会員も努力を惜まないと思うが協会自体もその力をよく認識してそれを活かす方法の考慮が現在甚だ必要であると思うのである。

組織図の内容とその構成



組織図の説明とその構成員 < >内は構成員

- 総 会 定款第21条第1項に定めた事項を議決する最高決議機関で、正会員をもって構成する。
- 理 事 会 定款第21条の第2項に定めた事項を審議決定する総会の決議の執行にあたる機関。
<理事長 白石勝彦。副理事長 渡辺 優。理事 泉 修二, 岡村 実, 狩野雄一, 川上信二, 川崎 浩, 坂田種男, 豊口克平, 長 大作, 中村圭介, 樋口 治, 三輪正弘, 山口勇次郎, 渡辺 力。監事 岩瀬要三, 依田勇夫。支部委員長 松本政雄(中部), 富田卓司(関西), 坂本康四(九州)>
- 選 考 委 員 会 会員の直接選挙によって選ばれ作品等の選考にあたる。
<委員長 渡辺 力。岡村 実, 狩野雄一, 白石勝彦, 豊口克平, 長 大作, 中村圭介, 樋口 治, 山口勇次郎, 渡辺優>
- 運 営 会 議 理事会における緊急業務を速かに実施にうつすための協議機関。
- 委 員 長 会 議 <議長 白石勝彦。泉 修二, 狩野雄一, 川上信二, 豊口克平, 長 大作, 中村圭介, 三輪正弘, 山口勇次郎> それぞれの事業委員会の連けいと調整をはかる。
<議長 中村圭介。泉 修二, 川上信二, 三輪正弘, 山口勇次郎, 秋山修治, 榎田 均, 尾上孝一, 田中聡行, 三宅征郎, 吉永 淳。>
- 総 務 部 <部長 山口勇次郎。(関西支部部長) 岡村実。渡辺敏雄>
- 財 務 委 員 会 財務運営に関する方針の具体化をはかる。 <委員長 田中聡行。矢吹宏, 光藤俊夫, 小畑次郎>
- 組 織 委 員 会 職能別会員の要望, 連けいなどの調整をはかる。
<委員長 吉永 淳, 大泉博一郎, 小畑次郎, 小菅澄男, 池辺武彦, 土屋晃一, 橋原豊郎, 森谷延周, 山田伊三郎>
- 渉 外 委 員 会 対外接しよう。
<委員長 三宅征郎。内堀繁生, 榎田 均, 坂田種男, 佐戸川 清, 島崎 信, 細田京子, 矢吹 宏>
- 広 報 部 <部長 川上信二。(関西支部部長) 川崎 浩>
- 出 版 委 員 会 会報以外の出版物の刊行にあたる。 <委員長 榎田 均。垂見健三, 橋原豊郎>
- 会 報 委 員 会 会報の刊行にあたる。
<委員長 尾上孝一。泉 修二, 織田武己, 加藤藤子, 高田紀久枝, 三宅征郎, 山岸柊史。(関西支部委員長) 本田安治。柏原秀夫。(中部支部委員長) 林 寅正, 宇賀敏夫, 安藤 清, 八代美智子, 若園 晃。(九州支部委員長) 香月寿一。白川雄輝>
- 事 業 部 <部長 三輪正弘。(関西支部部長) 樋口 治>
- 研 究 委 員 会 研究会, 月例会, 見学会, 講演会, などの実施運営をはかる。
<委員長 秋山修二。安藤 孚, 今崎 務, 木村戦太郎, 小菅澄男, 飾磨淳吉, 関口正己, 垂水健三, 永原 浄, 笠 敏生, わたなべひろこ。(関西支部委員長) 福岡喜久雄。(中部支部委員長) 若園晃。宇賀敏夫, 安藤清。(九州支部委員長) 中川千年。白川雄輝>
- 特 別 委 員 会 特別事業の運営を総括する。 <委員長 長 大作>
- デザイン・準備委員会 委員長 渡辺 優。豊口克平, 狩野雄一, 坂田種男, 三宅征郎, 長 大作 (岡村 実, 川崎 浩, 樋口 治) カッコ内は必要に応じて委員となる。
- 資格制度準備委員会 委員長 中村圭介, 狩野雄一(教育), 長 大作

選考にあたって

選考委員長 渡辺 力

去る4月26日当協会選考委員10名全員出席のもとに開催された委員会にて候補にあげられたものは、他せん、自せんを含めて19件で、その中から全員一致で二つの協会賞が贈られることになりました。

その一つは、栗辻博氏の「一連のインテリアファブリックス」に対しての作品賞、いま一つは、(株)ニックの「清新なデザインポリシーに裏付けさ

れた総合業績」であります。

栗辻氏は、テキスタイルデザイナーとして第一線において巾広い活動をしている方、1951年京都の美術専門学校図案科を卒業以来、21年にわたる実績の保持者であります。最近の作品としては、京王プラザホテルのロビーとグリの壁掛けがあり、ことに、ここ1～2年(株)フジ工のためにデザインされた作品は、従来の前衛的なものに比し、親しみやすい日常性を持ち、しかも格調の高いものとして知られ、こうし

た数多くの作品を出しておられます。

また、(株)ニックは、1966年3月創立以来満6年、その間、葉祥栄氏をはじめとする優秀なデザイナーに石井康夫氏という優秀なマネージャーの協力により、今日の輝かしい業績が作られています。また、同社は、九州デザインコミッティをバックアップし、九州芸術工科大学にNIC奨学制度を制定するなど、西日本のデザイン運動の中枢としての位置を築きあげる大きな功績を残しております。

受賞のことば

栗辻 博

思いがけなくも協会賞を受け大変に感激しております。誌面を借り皆様に厚くお礼申し上げます。

テキスタイルの世界もここ数年来デザインや品質の点では全体的に充実して来ました。テキスタイルの持っている生々しい感情が、現代の画一的な生活には必要欠くべからざるファクターとして、大きい関心呼んで来ていることが一番の進歩の要因でしょう。

テキスタイルは、様々なファンクションを見えながらも、私はそれ以上にもっと輝きを持った詩でなければならぬと考えます。

今後も皆様のご批判を受けながら、この受賞を一つの転機として新しい気持ちで仕事に取り組んでいきたいと思っております。

略 歴

1629年 京都に生れる

1651年 京都市立美術専門学校卒

卒業後、カネボウ意匠部に入社、テキスタイルの仕事に入る。3年後退社して上京、テキスタイルの仕事をつづけながら絵を描き、二科展、アンデパンダン展、グループ展に出品する。

1958年よりデザイン室を設立。以後、テキスタイルデザイン、テキスタイルカルチャーによる個展を数回開催。その間、各種の展覧会に出品。1971年毎日産業デザイン賞準賞。主な作品として、京王ホテル、東急ホテルのロビーのタピストリ 他がある。

受賞のことば 株式会社 ニック

ニックは、1966年にインテリアデザインを軸とする企業として、西日本鉄道株式会社と株式会社岩田屋(百貨店)両社の合併会社として設立された。

そして、その基盤に百貨店、鉄道、不動産、建築に関するそれぞれの専門分野のスタッフが、従来にない新しい形態の企業活動を行なう専門店として企業理念に徹して経営されてきた。

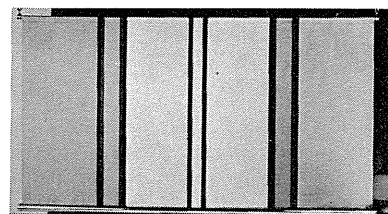
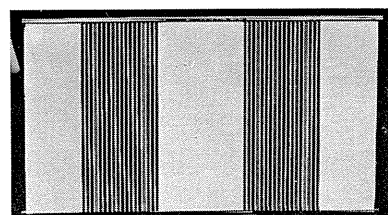
この度、7年目を迎えるにあたり、71年度JID協会賞を受賞し大きな喜びとあらたな責任を感じている。

それというのも、今回の受賞の評価としてあげられた「清新なデザインポリシーにうらづけされた総合業績」ということで、吾々が毎日考えている人間尊重の理念をふまえて、デザインとは何か、人間ともの、人間と住まい、地域社会とニックの関係等を追求しながら業務活動を行ない、企業体として成立させる努力を重ねて来たということでもあります。そして、これをより遂行していく上での自信を得たことと、社会に対してその役割がいかに重要であるかをかえりみる機会が与えられたからである。

今回の受賞を機に、ニックの一人一人の地道な努力の集積が豊かな明日の住まいづくりに貢献するものと確信

し、よりきびしいパイオニア精神をもって前進することが吾々の使命であると考えている。

(統合部部长・取締役 石井康夫)



栗辻 博氏の作品



ニック

資格制度化への動き

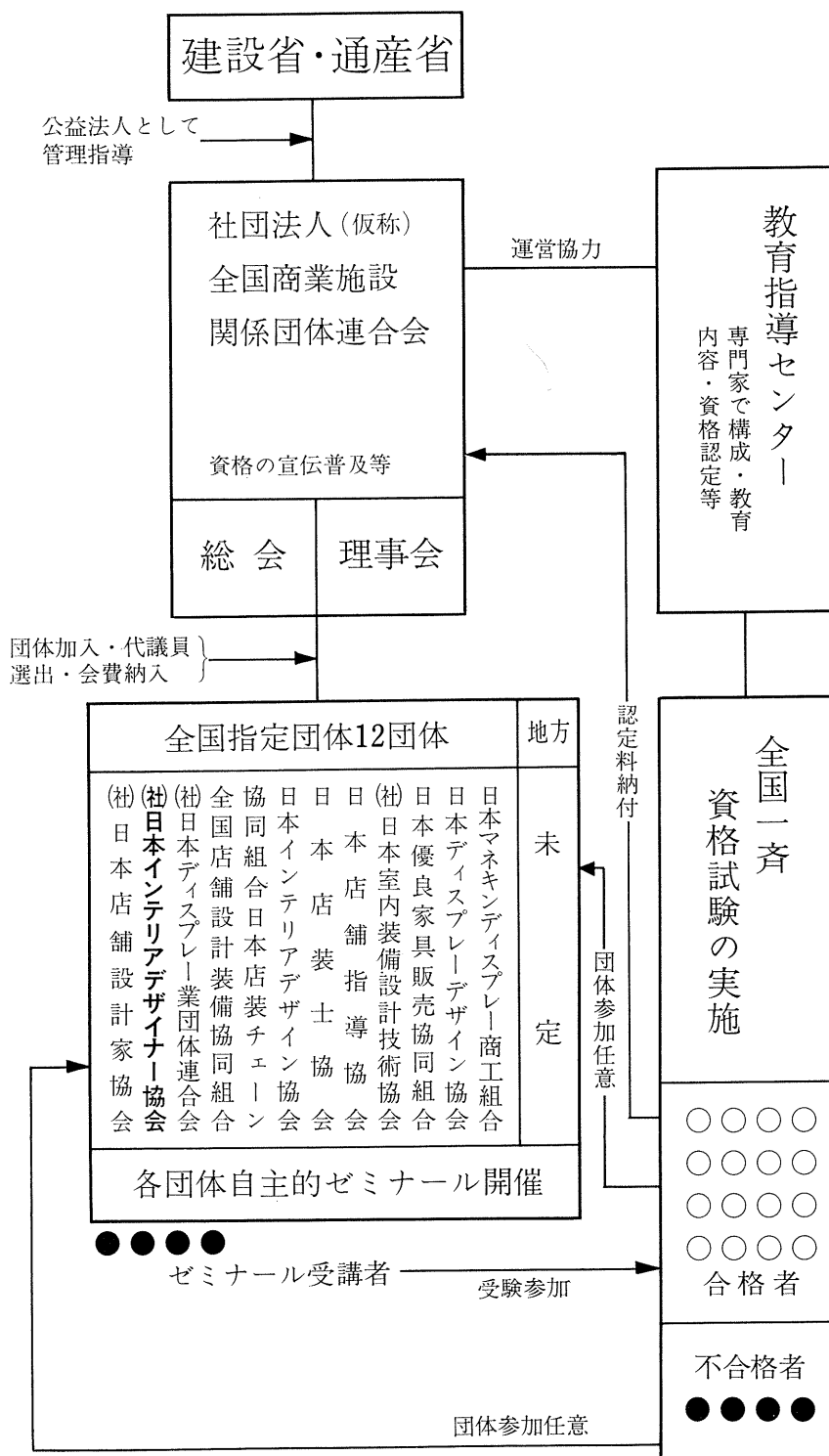
中村圭介

相つぎデパート・ホテル・キャバレーなどで火災事故が続発し、千日前デパートに見られるように、火よりも内装材から発生する有毒ガスが主な死亡原因となるに及んで、内装規制は強化され、内装設計及び施工者の社会的責任が問われるようになってきた。

このような社会的背景の上に、今春以来店装・インテリア・ディスプレイなどに関する設計又は施工者の12団体（別表参照）が集り資格問題の取り扱いについて協議している。

もとより、法的に見るなら建築士法や建設業法により規制される範囲であるが、商業施設の実体を見ると建築竣工後施工される、店装やディスプレイの分野とかかわり合う面が多く、そのような点を積極的に行政指導しようというのが、今回の資格問題の中心である。

その組織や資格内容は現在、定款及び教育専門委員会で検討中であるがその概要は次の表のようである。尚一般インテリアについては当面急を要する問題になっていないので、資格問題は見送れる形となっている。



注 資格は法人団体として認定する。

ニューヨーク便り (第二信)

大和保雄

1972年アトランテック・チャイナ・
アンド・グラスショウ

1月5日より8日まで、ニューヨークより南へ150マイル行ったアトランチック市で、チャイナ・アンド・グラスショウが開催されました。このショウは本年で14回目を迎え、従来の中では最大の規模であったといわれますのは、前回までは本会場の一階、地下を合せて、340,000平方フィートのスペースであったが、本年からは展示効果をいっそう高め、商取引高を上昇させる意味からも地下の展示場を廃し、本館隣りに、新しい巨大な展示場250,000平方フィートを新たに、オープンしたため、450社の多くの会社の参加がみられました。

ショウ会場のホールは、大西洋海岸沿いのポートウォークに面して建てられており、夏は海水浴客で、にぎわうポートウォークも、シーズン・オフの真冬とあって、人影もまばら、いそぎ足で歩いている人々は、ショウ関係者かバイヤーたちです。

本館は、いわば、本ショウの正統派のエキシビターが、従来は、ディナウェアを中心として参加してきたが、回を重ねるごとに、ギフトアイテムを並べるブースに変わりつつあり、ディスプレイに資金をかけた立派なブースも目立っているのも、このフロアーであり、特に入口を入って右側にそのようなブースが多く存在しています。

中でも、フランススカン社（アメリカ）、レノックス社（アメリカ）、デンビィ社（イギリス）ロイヤルストーン社（イギリス）、など陶磁器関係の有名会社は、大へん立派な落着いた展示を行ない、人目をひいていました。

日本の“ノリタケ”“佐々木ガラス”も、ここに堂々ブースをかまえていました。

本館フロアーの最奥部一段と高くなっているところに、アメリカのブロック社、日本のミカサ社も、この一隅にブースをかまえ、商品デザインの優秀さについて、常に注目を集めていました。

各国政府関係ブースは、日本、ドイツ、フランス、イタリアは、本年再び参加（昨年度—45年度—は休み）

アイルランドは、政府が100%スポンサーになって、始めて参加しました。

この別館は、ギフト・ショウの色彩が濃厚で、このフロアーは、ほとんど、金属洋食器、室内用品、造花などが、主で、まさにギフト・ショウといっても過言ではありません。

わが日本ブースは、前述したごとく別館中央に10コマを示め、素材のままの木材を柱や天井の“はり”に使い、ナチュラルな感じを表現したディスプレイで、展示品の陶磁器やインテリア小物などを、いっそうひき立てていました。（このブースは、ジェトロ・ブースですが、日本政府の資金により運営）

展示品の一般的傾向

1. テーブル用品

(1) 洗練されたテーブル用品をトー

タルにして、売り易いように展示されていたこと。

ここ数年、テーブル用品は、ただ単に加飾したパターンの釣合いのみを考慮に入れた商品が多かったが、本年は、特に、生活様式を考慮に入れた、あまり、けばけばしくない、落着いたデザインに変わってきました。

- (2) テーブル用品の表面の加飾は、古典的な東洋的の渋味のある花の模様が流行しだしました。
- (3) モダンなデザインで知られている Geraman 社でさえ、うす茶色の渋い花模様に同社の特徴を表わしていました。

2. カット・グラス、ガラス製品

- (1) ディナーウェアが略式になってきたので、グラス・ウェアもそれにならって略式になり、形式的な旧来の商品よりも、使いやすい機能本位の商品へと移ってきました。
- (2) 色彩も、ブルー、グリーン、いぶした色が流行してきました。
- (3) 洋酒用カット・グラスとアクセサリーには、手作りの味を強調した商品が脚光をあびてきました。



アメリカで一流の家庭用品を扱う商社の展示。
この商品がN. Yの一流百貨店に収められている。

今こそタレント意識に徹せよ

——これからの協会の在り方——

「アメリカでは文学は終りつつあります。メイラーにしても私にしても最後の作家ともいえる存在で、われわれが有名なのは、本が読まれるからでなく、テレビに出たり、私生活が知られたりする名士だからにすぎません。後略」。

これは、日本ではあまり知られていないが、ノーマン・メイラーと同世代に属するアメリカの流行作家ゴア・ビダール氏（45）が、世界旅行の途次、日本に立寄ったときの言葉であります。

彼の言葉は、政治、文学、演劇、映画……と多岐にわたり、まさに多才なタレントぶりをのぞかせていました。

さて、何故にこのような言葉をあげたかですが、それは先の協会のメリットについての発言を集約すると、もっと協会がタレント性をもつことを期待しているのではないのか。たとえば、協会はもっと社会的な発言力をとかなどは、まず第一にデザイナー各位がそれぞれの職域を通してもっと猛烈なタレント意識に徹することから始まるのではないだろうか。

昨年、協会は大きな計報に接しました。そして、かの先達の奥深い洞察力に富んだ言葉やタレントぶりに大いに共鳴し感嘆したのは私だけではないでしょう。それこそ、インテリアデザイン界の草分けであり、啓蒙者、タレントでもありました。

さて、今日は大衆化時代といわれ、“なんでも評論屋”という職業が生まれたり、マスプロ授業で人気を呼ぶタレント教授、深夜放送のディスクジョッキーのタレントぶりなど。

そして、かつての技芸の世界にあった修業のような下積みの時代はなくなり、ふとした現象から対話的な素人性が好まれてゆく時代となりました。

それは、50年代末から始まった西欧中心の世界の崩壊状況は、スターのような大衆の普遍的な欲望のシンボルの存在価値をうすれさせてしまった。

すなわち、だれもが私だってできるんだとするタレント意識をもった今日の状況こそ、まさに、現代の特質ではないだろうか。

そして、60年代に入ると上からのタレント論やマンパワー政策や人的資源開発などがきかれ、昭和38年経済審議会人的能力部会報告で、「ハイタレント論」として登場してきている。

その代表的理論家であるエリ・ギンズバーク氏（コロンビア大教授）は、「タレントという言葉は、普通は芸術方面で重要な貢献をしている個人の特別な能力をさして使われてきた。だが、近代社会は、芸術ばかりでなく科学、政治、事業など実際には生活のすべての領域にわたって、たくさんの異なったタイプのすぐれた業績を必要としている」。（「人間能力の開発」より）

すなわち、次のようにもいわれる。「いままでのいわゆる万能人的エリートとは、“真理”というものを絶対的なものとみなし、それを求めて研究する人間であったが、現代のハイタレントは、ただひとりの真理を絶対的な価値として探究するよりも、人間（大衆）の欲求に向いあって、それに自由に対応してゆく個性をさしている」。（井門富夫＝津田塾大教授）

それは、政治家、官僚、経営者…医者からスペシャリストに至るまで、自分の個性を武器に大衆の人気という獲物を求めてきそい合うのであります。

デザイナーもまた、今日の高度な技術革新と大衆社会の中で、いかにして大衆の個人的欲求を先取りし充足させてゆくかを計画してゆくハイタレントの一人でありましょう。

しかし、一方では、古い世代いわゆる修業の積み重ねの中で技芸を研鑽し

てきた経験中心の世代にとっては、つきあいにくい言葉でもあろう。

「名刺の肩書きにならない“文化人”とか“知識人”のような、なんとなくうしろめたいことばだ」。（放送作家永六輔氏）ともいわしめています。

しかし、現代のこのような大衆感覚やコミュニケーション感覚を認識して、その技術を通して大衆に訴え、そこにひとつの対話的要素を見出すことも、デザイナーの必要なタレントともいえよう。

たとえば、だれにでもできるんだとするインテリアデザインの在り方に、もし、大衆化が必要なく専門家としての領域を守るんだとする排他的意識があるとすれば、時代錯誤も甚だしい思い上がりであり、醜悪なエリート意識に通じるといえよう。

もはや、おれのデザインだからいいんだ式の独善や押しつけは通用しない。たとえ、壁紙屋であろうと、家具屋であろうと、吾こそインテリアデザイナーでありとかタレントといわしめておこう。彼らの叫ぶインテリア云々によってのタレントぶりは、それだけ大衆に向っての知的底辺を広げてゆく業績にこそ拍手するのも楽しいではないか。

しかし、大衆は愚かではない。

そして、現代の特質といわれる全ゆる分野での多様化、多極化の現象は、協会自身のもつ会員資格の多様化にも波及し、協会の定義をも考えねば……。

今こそ、だれもがこのような今日の状況を認識し、かつての古き体質を払拭してお互いによりき意味でのタレント意識に徹してゆくこと。

マルクスの理をかりれば、交換価値と使用価値の一致した“商品”となる位の気迫と行動力とを兼ね備える努力こそ協会タレント化への布石となるのではないだろうか。（尾上孝一）

賛助会員紹介

朝日木工株式会社 豊川工場
愛知県豊川市豊川町幾通り15
豊川 (05338) 6—4171

株式会社 コスガ
東京都中央区東日本橋2—15—4
東京 (03) 862—6711

株式会社 天童木工東京支店
東京都港区芝浜松町2—11
東京 (03) 432—0401

飛驒産業株式会社
岐阜県高山市名田町1—82
高山 (0577) 32—1001

富士ファニチャー株式会社大阪支店
大阪市福島区上福島北2—89 淀川ビル3F
大阪 (06) 531—9740

三好木工株式会社
東京都文京区湯島4—9—2
東京 (03) 813—5481

愛知株式会社
名古屋市東区赤荻町3—8
名古屋 (052) 941—6226

株式会社 寿商店
東京都千代田区有楽町1—14
東京 (03) 591—1311

チトセ株式会社
東大阪市玉串町東2—1—1
東大阪 (0729) 62—1141

ネコス工業株式会社
横浜市戸塚区飯島町久保890—1
横浜 (045) 851—5761

古川工業株式会社
大阪市大淀区中津浜通4—5
大阪 (06) 371—0849

株式会社 ホウトク
名古屋市中区錦2—15 協銀ビル
名古屋 (052) 201—4101

フランスベッド株式会社
東京都昭島市中神町1148
昭島 (0425) 43—3111

株式会社オリエンタル中村百貨店
名古屋市中区栄3—5—1
名古屋 (052) 251—2111

株式会社 大丸装工業
大阪市南区鰻谷中ノ町38
大阪 (06) 252—0641

株式会社 高島屋
大阪市南区難波新地6—14
大阪 (06) 631—1101

株式会社高島屋東京支店設計部
東京都中央区日本橋通2—5
東京 (03) 211—4111 内2157

株式会社 ニック (N I C)
福岡市中央区天神1—11—17 福岡ビル
福岡 (092) 77—2234

株式会社ハヤミズ家具センター
東京都台東区下谷2—7—2
東京 (03) 876—1111

国際インテリア株式会社
東京都豊島区南池袋1—18—21
東京 (03) 983—9151

株式会社 モダンファニチャーセールス
東京都千代田区大手町2—2—1 新大手町ビル
東京 (03) 211—8351

日本総業株式会社 (エアボン)
東京都港区麻布飯倉片町10
東京 (03) 582—3341

クラレ・インテリア株式会社
東京都港区六本木5—2—1
東京 (03) 403—9721(代)

株式会社 ホクサン
東京都江東区木場3—15—4
東京 (03) 641—5111

株式会社 木利屋
東京都港区新橋3—6—7
東京 (03) 503—1920

株式会社 商園
東京都渋谷区東1—26—26 富士ビル8F
東京 (03) 407—8171

有限会社 フカツ商店
静岡県静岡市中島390
静岡 (0542) 82—3681

株式会社 小川商店
東京都渋谷区松涛2—18—2
東京 (03) 460—5771

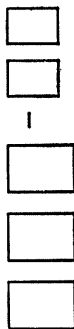
株式会社 川島織物東京営業所
東京都千代田区永田町2—14—2
山王グランドビル5F
東京 (03) 580—4511

協会に皆様の声を！

会員諸兄姉と協会を結ぶ定期便の会報に、協会並びに会報委員会宛の葉書を、毎号付帯させることにしました。皆様の生の声を、手軽に書きとめて協会へお送り下さい。会報へのご意見のみならず協会への希望、連絡事項などにご利用下さい。なお、当分の間、投函の際は10円切手をはって下さい。

(会報委員会記)

郵便はがき



10円切手
をおはり
下さい

東京都渋谷区神宮前1丁目十四ノ三十四

森ビル

社団法人 日本インテリアデザイナー協会
会報委員会行

切り取り線

機関誌・J I D Vol.13 No. 57 定価 200円
昭和47年8月発行 印刷 広洋印刷(株)
発行所 社団法人 日本インテリアデザイナー協会
(〒150) 東京都渋谷区神宮前1—14—34 森ビル
振替・東京・76389番 電話 (03) 403—6647
The Japan Interior Designers Association
Mori-Bldg, 14-34, 1-chome, Jingumae
Shibuya-ku, Tokyo, Japan.

発行人・白石勝彦 編集 社団法人日本インテリアデザイナー協会 会報委員会
担当理事 川上信二 ●三宅征郎・織田武己・泉修二
担当理事 (関西) 川崎 浩
委員長 (関東) 尾上孝一 ●加藤昂子・高田紀久枝・山岸征史
(関西) 本田安治 ●柏原秀夫
(中部) 林 寅正 ●八代美代子・若國 晃・宇賀敏夫・安藤 清

住江織物株式会社東京支店
東京都港区西新橋 3—23—1
東京 (03) 433—4171

東装株式会社大阪支店
大阪市城東区古市南通 3—20
大阪 (06) 939—5721

東洋紡インテリア株式会社
大阪市北区梅ヶ枝町108
大阪 (06) 361—6771

長谷虎紡績株式会社
大阪市東区横堀 2—10
大阪 (06) 203—5921

藤井毛織株式会社東京事務所
東京都中央区日本橋堀留町 2—3
東京 (03) 663—6631

内一商事株式会社東京営業所
東京都荒川区東日暮里 6—39—12
東京 (03) 802—4471

株式会社 サンゲツ
名古屋市西区小舟町 2 丁目14
名古屋 (052) 565—1133

アイカ工業株式会社
愛知県西春日井郡新川町西堀江2288
新川清洲 (0560) 40—5311

東洋ゴム工業株式会社
大阪市西区江戸堀上通 2—5
大阪 (06) 441—3580・8801

富国株式会社
東京都中央区日本橋小伝馬町 2—2
東京 (03) 662—1901

揖斐川電気工業株式会社建材事業部
岐阜県大垣市神田町 2—1
大垣 (0584) 81—3111 内線368

株式会社 トップトーン
東京都葛飾区東四つ木3—44—15
東京 (03) 692—9097 (代)

株式会社 佐野紙芸インテリア事業部
京都府亀岡市曾我部町犬飼馬の上 1
亀岡 (07712) 3—0661~4

佐治タイル株式会社
名古屋市北区山西町 3—106
名古屋 (052) 981—9531

東濃陶器株式会社
岐阜県土岐市駄知町1435
土岐 (05725) 9—3131

株式会社 アイ・エム・エス
東京都港区南青山 4—21—27
東京 (03) 402—1855

株式会社 日建設計
大阪市東区横堀 2—38
大阪 (06) 203—2361

株式会社 カフアドハウス
東京都港区西麻布 2—13—12 早野ビル
東京 (03) 407—2428

株式会社 竹中工務店東京支店
東京都千代田区神田錦町1—9
東京 (03) 294—2111

株式会社 ファースト東京支社
東京都港区赤坂 4—1—32 赤坂ビル 6 F
東京 (03) 585—2046

株式会社 東光堂書店
東京都中央区日本橋通 1—5 中内ビル
東京 (03) 272—1966

日本電気装備株式会社
大阪府東大阪市花園西町 1—14—11
東大阪 (0729) 61—6321

松下電工株式会社
大阪府門真市大字門真1048
大阪 (06) 908—1131

ヤマギワ電気株式会社
東京都千代田区外神田 4—1—1
東京 (03) 253—2111 (大代)

ヤマギワ電気株式会社 各古屋支店
名古屋市中区新栄町 6—9
名古屋 (052) 931—2111

共同通信工業株式会社
東京都千代田区内神田 1—17—11
東京 (03) 292—7671

(順序は業種別によった)

■ 編集後記 ■

このたび、新しく会報委員になりました。百貨店に所属していますので、消費者と直結したデザイン情報が提供できればと思います。(高田)

台風去って会報委員に美女二人、猛暑の中、涼風と共に来る。三宅氏腹痛のため都内某所に入りびたり。のどかな編集会議でした。(山岸)

台風去って日本列島びじょ美女となるか。57号なんと難産のことよ。乞う、御声援を。

年度代わりのため、役員、委員の編成など、会報発行どうしても遅れがち。

乞、御声援を。

(尾上)

切り取り線

(3) その他・何でも

(2) 協会への連絡

(1) 会報へのご意見